

令和4年度

東部小学校教育研究会体育部会【秋季研修会】 研究協議報告

令和4年10月19日

於 中ノ郷小学校 授業者 白間 直紀教諭

報告者 北川 一郎

【自評】

- ・技の関連、系統性を重視して単元を組むことができた。
- ・本時は、5時間目を公開し、「川跳び」（腕支持）の運動を中心に学習に取り組んだ。
- ・授業後に児童が、楽しかったと次々に報告にきた。
- ・運動に浸ることときまりを守る（順番を守る）の線引きをどうするか悩んでいる。
- ・言語化することが児童にとって難しく、よりの確に考えを伝え合うには、どうしたらよいだろうか。もっと、具体的に伝え合うことができたならよかった。

【研究協議】

藤井先生

- ・授業に浸っている様子が伝わってきた。きまりも守れている。
- ・タブレットの使用については、例えば、見学の児童に撮影させて次時の掲示に活用するなどが考えられる。
- ・ふりかえり板については、使用がなかった。1年生には難しかったかもしれない。

上川先生

- ・運動学習時間については、十分とれていた。
- ・掲示物、ホワイトボードなどの視覚支援ができており、的確な言葉かけもできていた。
- ・ふりかえり板を活用しての評価が難しいことや、率直にその声をあげればよいのではないか。

村上先生

- ・マイクでの指示については、考えがあつてのことか。
（回答）→コロナ感染対策として、マイクの使用と指示の口調に気をつけた。参観者が多数ということもあり、マイクを使用した。普段は、マイクは使用していない。
- ・準備については、どのように考えているか。
（回答）→教師がマットの準備をしている。しかし、安全面を考慮しながら、児童にも片付けをさせている。

池井先生

- ・先生が模範（失敗例）を見せることで、児童の視点がはっきりした。
- ・着地で膝をついている児童がいた。
- ・手形（足形）などのポイント明示があればよかった。

澤田先生

- ・評価に関して、何割ぐらい伝えられたか。
（回答）→2割ぐらい。見切れていないことがある。4つの運動の場を設けているが、川とびを中心に見ていた。あとは、児童がわたしたちの体育に書いたものを参考にする。
- ・見学者に評価させてはどうか。
- ・普段のアドバイスの仕方が大切。児童が、いかに言葉を知っていることが的確な評価につながる。

【指導助言：綱本大介先生】

- ・昔の部活の印象は、「礼儀」を思い浮かべる人が多いのではないか。それを変えていかなければいけない。
- ・運動に「浸る」ことがまずは大切で、それから、きまりにつなげていけばよい。
- ・「知識・技能の習得」のために学習しているのであり、できることだけをどんどんやっていることを主体的活動ととらえない。「知識・技能の習得」のために、挑戦したり、粘り強く練習したりすることに価値がある。
- ・準備、片付けに関しては、児童だけでもできる。45分の中でやる。
- ・川とびに重点を置くなら、視点の位置や手をつく位置を示したらよい。
- ・場の工夫としては、マットを3枚ずらして重ね、マットの中心に溝をつくることで、首が抜けやすく、回転運動が楽にできるようになる。
- ・後転に関しては、手をグーで握って回ると、回転しやすいという実践もある。
- ・評価に関して、カードやタブレットの使用が考えられる。子どもの話し合っている様子をどう評価するかが課題だ。
- ・「運動あそび」とは、いろんな動きがある、ゲーム性がある、自分で選んで運動することができるということ。
- ・何を学ばせるのか、視点と目標が大切である。